平成11年6月8日第三種郵便物認可 (年4回2・5・8・11月の10日発行) 第206号 令和6年8月10日発行

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

2024.8 VOL.206



特集①　創立50周年記念式典

特集②　「木」と共に生きる　～伽藍維持と信仰の未来～

対談　寺院建築と伽藍維持
橋本光男氏インタビュー　伝統をつなぐ　～木と向き合う杣夫の想い～
曾根宏規老師インタビュー　祈りの先に　～三世を結ぶ仏像～
特集まとめ　渓声山色

創立50周年記念事業 記念式典



令和6年5月23日、曹洞宗檀信徒会館において、全曹青創立50周年記念式典を挙行しました。現役の青年会員含め、２００人の皆様にご参加いただきました。来賓として、大本山總持寺貫首・石附周行禅師、大本山永平寺貫首名代・東京別院副監院・宗清志老師、曹洞宗宗務総長・服部秀世老師にお越しいただきました。記念式典では、仏祖諷経・全曹青物故者慰霊諷経とあわせ、今年元日に発災した能登半島地震の慰霊黙祷を行いました。

記念式典冒頭では、田ノ口太悟会長より式典に参加された皆様への挨拶がありました。全曹青50年の歴史を振り返り、歴代の会長老師をはじめとする全曹青会員の皆様に感謝を述べるとともに、次世代への承継の誓いを述べました。

全曹青第2期会長であられた石附禅師からのご挨拶では、50年前の全曹青創立当時を思い起こされながら貴重なお話を頂戴いたしました。当時、全国各地で別々に活動していた青年会活動をまとめ、宗門として一丸となっていこうという機運が高まっていた様子をお話しされました。当時から全国より多くの青年僧侶が集まっていたため、お互いが良い刺激になったそうです。お話の最後には、現代とこれからの時代を担う青年僧侶に対して激励のお言葉をいただきました。宗老師は、大本山永平寺貫首・南澤道人禅師からのご祝辞を代読されました。その中で全曹青という組織をサンガにたとえ、たゆまぬ自己研鑽に励むようにというお言葉をいただきました。その自己研鑽をもって社会の課題に取り組んでいくことを期待されていました。服部宗務総長よりは、『大衆教化の接点を求めて』という全曹青の創立理念に触れながら、能登半島地震をはじめとする大規模災害への災害復興支援活動という社会貢献を高く評価していただきました。また、これからも時代に合わせた形での社会貢献活動の展開を期待されました。

記念式典の最後には、宮本昌孝副会長が能登半島地震の活動報告を行い、今後も継続的な支援を呼びかけさせていただきました。

文／広報副委員長　信行一宏


全国曹洞宗青年会創立50周年
記念式典・記念シンポジウム・記念講演



















記念シンポジウム


第10期 吉川 俊雄 会長


第７期 神野 哲州 会長


第６期 吉岡 棟憲 会長


第14期 池上 幸秀 会長


第13期 荒木 正昭 会長


第12期 寿松木 宏毅 会長

式典後、午後3時半からは「未来への結集」と題したシンポジウムを開催しました。まず森井宗淳50周年記念事業実行委員長により周年事業について映像を交えたプレゼンテーションが行われ、各事業に込める想いが述べられました。

その後は、順番に各期の活動内容をまとめた映像を上映し、歴代会長にご登壇いただいて当時のエピソードや今後の全曹青への期待等を語っていただく形で進行しました。これまで多くの方々の手によって積み重ねられてきたものを如何にして未来へと繋げていくかを考える有意義な時間となりました。

【各期会長のご発言要旨】

第６期会長の吉岡棟憲老師には、全曹青創立当時の熱気について、また任期中に個人加入から各地方曹青会単位の団体加入への転換を行い、今日の全国的な組織の基盤が形作られていった様子について語っていただきました。

第７期会長の神野哲州老師からは、社会へのアピールが重要であるという信念の下、ご自身が発起人の一人となった奈良県東大寺での千僧法要が現在まで続いていることへの喜びの言葉、そして「次世代」というよりも「今」の宗門を担うつもりで活動していってもらいたいとの激励を頂きました。

第10期会長の吉川俊雄老師からは、同郷の先輩にあたり全曹青の創立にも携わられた有馬実成老師から強い感化を受けたこと、そして阪神・淡路大震災でのボランティア活動では立場を超えて集まった人々が「渦を巻くように」接点を結びながら活動していたことを語っていただきました。

第12期会長の寿松木宏毅老師には、それまでの『曹青通信』が第１００号を契機として広報誌『そうせい』へと発展した経緯をお話しいただきました。当時としては珍しかったカラー印刷の採用、第三種郵便への切り替えと宗門全体に向けた発行などの挑戦があったことを紹介していただき、今後も時代に合った情報発信の形を模索していって欲しいと鼓舞していただきました。

第13期会長の荒木正昭老師は、授戒会や災害ボランティア、仏前結婚式などの様々な分野の取り組みを振り返りながら、幼い世代を含む幅広い層への働きかけによって、ご縁を広げていくことの大切さを語られました。

第14期会長の池上幸秀老師は、各加盟曹青会との協力の中で『正法眼蔵』の写経や大本山永平寺への拝登、東司清掃といった慕古事業に邁進することができたことを取り上げられました。全曹青の連絡協議体としての役割の意義を強調され


第18期 久間 泰弘 会長


第17期 芳村 元悟 会長


第16期 宮寺 守正 会長


第21期 安達 瑞樹 会長


第20期 櫻井 尚孝 会長


第19期 松岡 広也 会長


第24期 山田 俊哉 会長


第23期 原　知昭 会長


第22期 倉島 隆行 会長

ました。

第16期会長の宮寺守正老師には、会則の改正や委員会の再編等を通じて組織の基盤を固め直したことで、複数の大きな災害に見舞われながらも、各自の知恵の持ち寄りによって各事業を推し進めていくことができたことをお話しいただきました。

第17期会長の芳村元悟老師には、各加盟曹青会が全曹青を通じて協調し、一丸となって災害対応に取り組んでいく中で、意識の共有を目指して「ボランティア憲章」の作成が行われたことを語っていただきました。

第18期会長の久間泰弘老師からは、「大衆教化」を重要なテーマとしてきた全曹青のそれまでの活動をさらに一歩進め、声にならない声に耳を傾けることを目指して、電話相談を基幹事業として立ち上げられたお話を伺いました。

第19期会長の松岡広也老師は、東日本大震災という未曽有の災害に際して、宗務庁との協同によって持続性を意識しながらボランティア活動に取り組んだこと、世界仏教徒青年連盟への関わりを通じて今日の国際委員会まで繋がる活動の基礎が作られたこと等をお話しくださいました。

第20期会長の櫻井尚孝老師は、大本山總持寺での全国徒弟研修会 with 国際こども禅のつどいを始めとする40周年記念事業を振り返り、これまでの蓄積に囚わ

れすぎず常に新しい切り口を追い求めてもらいたいと、励ましの言葉を下さいました。

第21期会長の安達瑞樹老師からは、東日本大震災の七回忌を迎えると共に熊本地震の発災にも直面する中で、ご自身も抱かれた「何か自分にできることをしたい」という気持ちを、全国から受け止めて実現化することを目指し、事業を展開されたことを伺いました。

第22期会長の倉島隆行老師は、映画『典座―TENZO―』製作の背景を語られる中で、40周年記念事業での青山俊董老師によるご講演が1つの出発点となったことを挙げられて、今回の周年事業がまた次の10年の活性化に繋がることへの期待を述べられました。

第23期会長の原知昭老師には、宗門を取り巻く喫緊の課題として、過疎問題を基幹事業の対象に取り上げたこと、そしてまたコロナ禍によって注力の方向性に試行錯誤する中でリモート技術の有効活用等の新たな潮流が生まれたことをお話しいただきました。

第24期会長の山田俊哉老師は、先行する各期のITへの取り組みが種となりコロナ禍の中で結実して『Paradigm Shift』を生み、全曹青という全国組織が物理的な距離を超えた結びつきを強めることに繋がったことを語られました。

文／広報委員　竹田龍永





各期活動紹介映像

記念講演

令和6年5月24日、曹洞宗檀信徒会館において全曹青創立50周年記念講演を開催しました。戦場カメラマンの渡部陽一氏を迎え、「レンズからの宗教～戦場の死生観～」をテーマにお話しいただきました。この講演は創立時の青年僧侶の想いを戦争経験のない現代の青年僧侶が想像し、改めて『大衆教化の接点』とは何かを考えること。そして戦争について改めて認識し、未来に向け想いをつなぎ合わせることを目的としました。



渡部氏は20歳の頃にルワンダ内戦の地を訪れ、助けを求める子どもたちに対して何もできなかった経験から、戦地の現状を世界に発信する戦場カメラマンになる決意をされました。戦場ではライフラインとなる医療現場が常に狙われ、その犠牲が常に子どもたちであると、悲劇的な写真とともにその様子を語られました。

渡部氏が訪れたどの地域も生活のすべてが宗教慣習で成り立っており、イランなどでは大統領よりも宗教指導者の考えが優先されるなど、戦争では宗教が及ぼす影響はとても大きく、青年僧侶も深く考えさせられる講演となりました。

文／広報委員　補陀孝亮

災害復興支援活動全国研修会　開催報告

中国管区

令和6年6月4日に広島県福山市の泉龍寺様で開催し、約60人の僧侶や寺族が参加しました。講師には中島武志氏（NPO法人 災害救援レスキューアシスト）をお招きしました。

午前の炊き出し研修では、試食を交えながら調理方法を実演し、炊き出しセットの使い方、災害支援の経験をもとに、炊き出しの注意点等の講義が行われました。実演で調理した料理は参加者が協力して盛り付けを行いました。今回の献立は、アルファ米（五目）、シジミ汁、法蓮草とツナのお浸し、人参しりしり、生姜焼きの5品でした。

午後には中島氏より災害復興支援の心得についての講義が行われ、災害時にボランティアとして入る上での心得を教えていただきました。災害が発生した場合、すぐに駆けつけたい。しかし現地へ行こうと思っていても現地では受け入れ体制が整ってない場合もあります。何の準備もせず向かうとかえって被災地に迷惑になることもあるので、被災地からのニーズに沿った活動を行うこと。十分に準備し、被災者に負担をかけないことが大切だとこの講義を通して感じました。正しい知識を身に着けることで、様々なリスクに配慮した被災地支援につながる研修会でした。

文／広報委員　植本大貴





北信越管区

令和6年6月26日に石川県輪島市の大本山總持寺祖院で開催しました。NPO法人 災害救援レスキューアシストの川島浩義氏を講師としてお迎えし、僧侶、寺族合わせ69人が参加しました。午前の炊き出し研修後、実際に公民館や避難所へ赴き、約450食の調理した食事を配布しました。午後には復興支援活動として三松関の瓦礫撤去、大祖堂清掃などの境内整備を行いました。

大本山總持寺祖院副監院・高島弘成老師は、挨拶の中で「当事者意識」をもつことの重要さを強調されました。発災当初に物資も届かない中、数日間避難所で炊き出しをした経験を踏まえ、自らが被災者となった場合に僧侶としてどういった対応や振る舞いができるか、明日は我が身だと思って行動してほしいとお話しいただきました。

支援活動終了後、山門前で能登半島地震慰霊諷経を執り行いました。被災された方々に想いを寄せるのと同時に、利他行の大事さや僧侶に求められる支援の形を改めて考えさせられる研修会となりました。

文／広報委員　南澤亨全





特集

「木」と共に生きる

～伽藍維持と信仰の未来～

日本は、国土面積の約3分の2が森林であり、古来より「木」は寺院建築や仏像建立などあらゆる場面で密接に関わってきました。現在、寺院においては伽藍維持の難しさが懸念され、昨今の自然災害や過疎化の問題も踏まえると死活問題となっています。

『辨道話』に「土地草木牆壁瓦礫皆仏事を作す」とあるように、自然には命が宿っているという考えがあります。私たち僧侶の生活は「仏の命」によって支えられているといっても過言ではないでしょう。

今特集では寺院建築におけるこれまでの歴史についてなど、5人の有識者の方の見解を通じて今後どのように伽藍維持や寺院運営をしていくかを伺います。また材料となる木の伐採を担う方や地域の拠り所として鎮座する木造の仏像の取材を通し、「木」に対しての姿勢やこれからの信仰のあり方について探求していきます。

文／広報委員　南澤亨全



対談者プロフィール

髙橋（たかはし）志行（むねゆき）氏　昭和54年生まれ
（株）むね工房代表取締役社長。一級大工技能士。

池田（いけだ）聡寿（そうじゅ）氏　昭和35年生まれ
長野県上松町（株）池田木材社長。木曽官材市売協同組合副理事長、木曽木材協同組合副理事長、木曽御嶽奉仕会会長を歴任。

髙橋（たかはし）賢二（けんじ）氏　昭和27年生まれ
長野県長野市（株）中村建築研究所取締役会長。信州善光寺顧問、穂高神社顧問を歴任。

小笠原（おがさわら）隆元（りゅうげん）老師　昭和13年生まれ
長野県松本市廣澤寺東堂。駒澤大学名誉教授、大本山總持寺顧問を歴任。

南澤（みなみざわ）亨全（こうぜん）（広報委員）

髙橋（たかはし）修一郎（しゅういちろう）氏　昭和47年生まれ
（株）中村建築研究所代表取締役社長。一級建築士。

取材場所：長野県　曹洞宗　廣澤寺

寺院建築と伽藍維持

南澤（取材担当）
―寺院建築のこれまでの歴史を教えてください。

小笠原老師

これまで廣澤寺が所有する裏山は、燃料材や薪炭の供給源として地域の人々に利用され、植林作業によって育った木を切り、その場で乾燥、製材をして建立されたと考えられます。当時の権力者や経済的に豊かな檀信徒が支援し、寺院を建立するということが多かったと思います。

開基家や大檀那の協力を得ながら、それぞれの寺院が自立して、自分で寺院の建物を作るということを長年やってきたと思います。この辺は特に山を持つ寺院が多いので、地元の山の木を使って作ったと言えます。平成10年に老朽化で解体された旧本堂も３００年以上の風雪に耐えたものでした。

池田氏

日本には世界に誇る木の文化があります。代表的なものは奈良県の法隆寺ですが、その他の寺院建築もすべて誇れるものだと思います。法隆寺は１６００年の間、修復を繰り返しながら現在も祈りの対象となり、仏像やご本尊様をお守りしています。ヨーロッパは石の文化に対し、日本は木の文化だと言えると思います。木材の中でも特にヒノキ（木曽檜）のような樹齢３００年のものは、３００年経過すると倍の強度になり、１０００年経過しても伽藍が維持できるようになると言われています。

髙橋志行氏

池田さんが言うように、木は１００年、２００年と長い年月を経ると粘りがでて強度が高くなります。

髙橋賢二氏

吸湿と湿度調整の機能を持っているため、エアコンを使わなくても木が湿度の調整をします。寺院建築に木が選ばれた１つの理由と言えます。

南澤
―現代の寺院建築、林業はどのような問題を抱えていますか。

小笠原老師

昭和10年代までは一般の人が山に入って木を切り、燃料や材料にしていました。寺院はその拠点にもなっていました。そ



ういった山の手入れを昭和40年代以降はしなくなったので、この50～60年間で山が荒れてしまっているという問題があります。特に松本平周辺の山林での松枯れ、松くい虫の被害は甚大で大問題です。

池田氏

地域によって伐採や育てたりする人の減少が問題だと思います。日本は木材業界の政治力がありませんでしたので、外国から来る木材に関税がかからず安価な外材が大量に輸入され、日本の林業は一時とても衰退してしまいました。しかし近年では環境問題に対する意識が高まり、環境に負荷のかからない国産木材を使おうという機運になりつつあります。これまで外材を使っていたので、日本には伐採していない地域が多くあります。あと数十年で社寺建築にも使える木材が豊富になるのではないでしょうか。

髙橋志行氏

タンカーで重油を消費しながら運んできた外材は、コストがかかり環境にも悪いです。だからCO2を削減するために国産木材を使いたいのですが、国産木材を作るための大きな工場が全然ありません。

髙橋賢二氏

外国産の木材は大きくて扱いやすいという利点もありますが、木の中に虫がいて食われていたということもあります。木に対しての色々な知識を得ることが大事なのではないでしょうか。

池田氏

JAS（日本農林規格）の規定に、木材は高温乾燥しなければならないという規定があります。寺院建築に関してはまだ規定外ですが、高温乾燥するとひのきの香りや本来の木材の良さが消えてしまいます。伽藍を長持ちさせるために一番重要な木の弾力性の粘りを保つためには、天然乾燥が一番良いです。

南澤

―木造建築の利点、鉄筋コンクリート建築との違いを教えてください。

髙橋賢二氏

木造建築は柔軟性や耐久性に優れており、地震で揺れても力を逃がす働きがあります。鉄筋コンクリート建築は硬くて強いイメージがありますが、内部結露し中の鉄筋が腐ってしまう事例があるので案外脆いです。コンクリート自体が長持ちしたとしても塗装費、建物の維持費が物凄くかかります。

髙橋志行氏

東日本大震災のときに宮城県気仙沼市で比較的新しい家が潰れて、築100年の古民家が残っていたのを見ました。免震構造といって木組みで揺れを逃がしたので倒れなかったのだと思います。



池田氏

今回の能登半島地震では、木造建築が弱いというのが強調されている気がしますが、五寸角（15㎝）以上の柱を使い、接合部の強度を高めれば地震にも強い伽藍にできると思います。

髙橋修一郎氏

今回の能登半島地震は特に長い周期で動で建物の揺れ方がより増幅してしまいます。同じ震度でも地盤の固い場所は増幅しなかったので建物が倒れていません。建築に携わる身からすると、上の建物の問題ではなく下の地盤のことをもっと調べてほしいです。報道によって木造は弱い、瓦が重いからいけないといったマイナスなイメージが植え付けられているような気がします。

また、今はコンクリートもバクテリア等を用いて、自ら補修するといった技術があります。建築基準法も大きな地震があるごとに調査が入り、改訂されます。



今後も新たな技術が出てきて、地震に強い建築ができるようになってくると思います。

南澤
―建築の仕事を担う上でのこだわりはありますか。

髙橋賢二氏
私共社寺建築を担う身としては、できれば木で作りたいというのが本音です。

髙橋修一郎氏
設計者としては震度7でも倒壊しない伽藍づくりを目指しております。やはり命を守るのが一番大事です。新築なら自信がありますが、改修となると担い手のキャリアが非常に必要だと思います。今ある築100年の本堂をもう100年もつように、といった改修の場合は新築よりも気を遣わなければなりません。

池田氏
人工乾燥ではなく天然乾燥にこだわって納材させていただいていることです。天然乾燥だと油っ気が抜けずに木材本来の良さが際立ちます。また材料が良いと建築を担う棟梁さんが頑張る、棟梁さんが頑張ると、左官屋さんや屋根屋さんが間違った仕事できない、という相乗効果が生まれ、良い伽藍が作りあがっていきます。木曽檜の質の良さを多くの方に知っていただきたいです。

南澤
―今後どう伽藍を維持していけばいいでしょうか。

小笠原老師
それぞれの寺院で木を植えることです。将来、200年、300年計画で木を植える余地のあるところは植えて、それを伽藍に使えばいいと思います。前本堂が築330年でしたので、なんとか建て直したいと思い子供の頃から考えていたのが、私が60歳過ぎにようやく実現しました。青年僧侶のうちからどう伽藍を維持するか考えていくことが大事だと思います。この30年来毎年、境内の中で植樹が可能な所に檜や杉など様々な種類の木を植えています。あとは高齢者の方がお参りしやすいように整備することです。当山は山間の傾斜地にあるのでエレベーターを庫裡内に2基設置しました。今後そのような配慮をしていかないとなりません。

池田氏
設計士さんで気心知れた方がいて、自分の思い描いた形を具現化し、図面に落とし込んでいくことが大事だと思います。信頼できる設計士さんがいれば、将来的に改修や新築になったとしても良い方向に話が進んでいくと思います。

髙橋志行氏
薬師寺を作った西岡棟梁さんは、同じ土地に生える木でも日当たりや気候によって伽藍に使える場所が変わってくるとお話しになられました。同じ木でも気候や風土によって適材適所があるということを知り、それを活かしてほしいです。

南澤
―常住する僧侶に求めることはありますか。

池田氏
小笠原東堂さんがなさった本堂、庫裡、管理棟、鐘楼堂落慶という大事業は、大きなエネルギーが必要だったと思います。住職様方におかれては、今ある伽藍を100年、200年維持していきたいという強い信念や気構えが必要なのではないかと思います。

髙橋修一郎氏
苦労があったから良かったというご住職さんは多いです。伽藍を整備するのは大変で、それだけの思いが必要な事業だと思います。

小笠原老師
まずは僧侶自身が寺の護持のために経済的な積み立てをしていくことです。どうやって伽藍を維持していくかは、住職になればなるほど大変な宿題です。いずれにしても莫大な予算がかかるので、寺の護持のために「少欲知足」の生き方の実践をしてほしいです。寺族さんも含めて勉強したり何か資格を取得したり、護持していただいている檀信徒の皆様にも示しがつく行動を普段から心がけてほしいと考えております。

取材／広報委員　南澤亨全
補陀孝亮

伝統をつなぐ

～木と向き合う杣夫の想い～



提供／上松町

令和15年、20年に一度社殿を新しくする式年遷宮が三重県の伊勢神宮で行われるのに先駆け、長野県木曽郡上松町では令和7年に「御杣始祭（みそまはじめさい）」という祭事が開催予定です。伊勢神宮へ奉納する御神木を奉伐し、社殿の立派な完成と携わる人々の安全を祈る儀式で、町内で発足した三ツ紐伐り保存会が儀式に携わります。6月上旬の御杣始祭を皮切りに数日間に及ぶ奉納行事ののち、御神木が伊勢神宮へ向けて出発します。総称して「御神木祭」といい、町を挙げて奉祝行事を行います。

取材日には杣夫（そまふ）（山に入り、木を伐採する人）の棟梁を務める橋本氏を中心に三ツ紐伐りの練習会が行われました。三ツ紐伐りとは、杣夫が木の幹の三方向から斧をいれて伐り倒す伝統技法で、その歴史は式年遷宮行事が始まった1300年前より古いといわれています。チェーンソーとは違い時間も労力もかかる技法ですが、倒す方向の調整ができ、木への損傷も少なく、大径木を安全に伐採できるのが利点です。杣頭の橋本氏にお話を伺いました。

橋本氏

今まで昭和60年と平成17年の2回、御杣始祭で御神木に携わらせていただきました。次回で3回目となりますが、20年に1度という大祭なので杣夫として誇りをもってやっております。高齢化などで杣夫が足りない状況でしたが、地元を挙げ一丸となって保存会をつくり、今は若手の指導を中心に技術の継承をしております。

木曽地方では木を伐り倒すという表現ではなく、木を「寝かす」という表現をします。練習会では樹齢100年の木ですが、御杣始祭では樹齢300年を超える御神木に対して斧を振ります。どちらの木も自分たちの年齢よりもはるかに上の樹齢です。厳しい環境を耐え抜いて今まで生きてきた木の命に対して敬意を持つことが大事です。心の中で頼むぞ、無事に思った方向に寝てくれよ、と人間に語りかけるように木と向き合っております。

木は伐り出したから命を終えるものではなく、むしろそれからが命の始まりです。伐り倒すと木の命は終わりますが、匠の技術により仕上げることで第2の命を蘇らせることになるといいます。1本の木に対して真摯に向き合う、上松町の杣衆の心意気を感じました。



橋本（はしもと） 光男（みつお）氏　昭和27年生まれ

森林管理署職員を務め、現在は三ツ紐伐り保存会の杣頭として中心となり活動する。長年に渡る林業経験や技術を後世に伝えるべく、人材育成にも力を入れる。



祈りの先に
～三世を結ぶ仏像～



ノミ入れ式



静岡県焼津市、漁業が盛んなこの街に大覺寺全珠院があります。８５０年開創の歴史あるこのお寺には千手大観音が祀られています。別名千年仏といい、木造漆箔造で大仏様式では国内最大級の大きさの丈六仏です。どのような経緯で大仏造顕に至ったか、曾根老師にお話を伺いました。

曾根老師

私が住職になった平成６年は辺り一帯で区画整理事業が始まり、お寺の統廃合も視野に入れなければならないほどの危機にありました。当時の開基家に相談すると、「今まで１０００年間ご先祖様が守ってきたお寺を自分たちの代で潰すわけにはいきません。所有する土地をすべて寄進するので、過去１０００年に感謝し、この先の未来１０００年、皆が手を合わせられるようなお寺作りをしてほしい」という願いが伝えられました。

そこで私は地域の心の拠り所となり１０００年経ても変わらず残るものとして、千手大観音の造立を決意しました。現在日本に残っている仏像を調べましたが、１０００年残っている平等院鳳凰堂の阿弥陀如来のように、木造の仏像が一番長持ちします。仏師の渡邉勢山氏に制作依頼し、用材には木曽檜を用いて、平成10年には用材へのノミ入れ式（発願造顕式）を執り行いました。当時の宮崎奕保猊下を導師としてお迎えし、約１０００人の方が参列しました。皆から手を合わせてもらえる大仏にするには、その制作から一人一人に関わってもらってこそできると思いました。参列者全員にノミ入れをしてもらい、その際に出た木片をお守り袋へ入れて持ち帰っていただきました。そして平成15年に開眼法要を執り行いました。ただ、仏様の御身のみの開眼となり、台座と光背の造顕には至りませんでした。区画整理が進み、境内整備の必要性が出てきたためです。悩みましたが、まずは今の檀家さん方を大事にしようと思い境内整備を優先しました。

現在、「千年佛縁起」と題して仏師の宮本我休氏に制作依頼し、台座と光背を造顕するプロジェクトを遂行中です。１０００年先の未来に想いを馳せ、皆様からのご支援をいただきながらともに歩んでいきたいと思います。

様々な困難がありながら、人々のご縁に支えられて地域の象徴として今日まで至る大覺寺全珠院。今までのご縁を大切にし、未来へと継承していくという曾根師の強い「魂」を感じる取材となりました。

文／広報委員　南澤亨全



曾根（そね）宏規（こうき）老師　昭和36年生まれ
静岡県焼津市大覺寺全珠院住職。
「千年佛縁起」を発起し、令和11年の焼津大観音完成式典に向け、ご縁を結び合わせる活動を行っている。

渓声山色



「木首では木が鳴く、と杣衆の間で言われているのを知っとるか。」

今回の対談をはじめとする取材に関わっていただいた池田氏は、創業者である祖父からそう聞いたそうです。「キィー」とまるで悲鳴のような音をたてながら倒れる（寝る）木を目の当たりにし、木の命に触れたのが池田氏の原点となりました。

木曽地方では、木を伐った後に「株祭り」といわれる儀式を行います。写真のように、切り株の中心に木の先端の梢をさし、全員で一礼します。これには木の命を大切に使わせていただきますという誓いと、どうかこの根株の上に檜が芽吹き、大樹となりますようにという願いが込められています。

今回の取材を通して、様々な分野から木の命と向き合う方々の想いを感じることができました。私たちが生活している伽藍や社寺建築は単なる個人の住まいではありません。檀信徒の方々に限らず、地域の方々の心の拠り所として成り立っています。そういった皆さんとともに心を結んでお寺を守っていく必要があると思います。

また、橋本氏への取材では、技術の継承だけではなく心の継承がなければ続かないというお話がありました。伊勢神宮の式年遷宮行事も、戦国時代の１２０年間の中断を経て復活し、今日に至ります。伝統や歴史を引き継ぐ想いの強さや真剣さ、師から弟子への「相承」の大切さを改めて実感しました。

曾根師への取材では、僧侶として信仰心とは何かを改めて考えさせられました。仏像は3つの願いで法力が増すといわれ、住職・仏師・檀信徒、それぞれの願力がひとつでも欠けると成就しないといわれています。自らの名誉や利益のためではなく、これからの未来にどう伝え残すか。そのためには「今」を大切に生きること、その積み重ねがより良い未来をつくる道しるべとなるのではないかと思います。

対談にもあったように、伽藍を維持していくのは簡単なことではありません。今後、地方の過疎化や気候変動等でますます厳しくなっていくはずです。青年僧侶として、一人の宗教者としての力量がより一層問われる時代だと思います。先人たちが大切にしてきたものを守り、厳しい環境の中でも耐え抜いて成長した1本の木のように、真っすぐな生き方であらゆる命と向き合っていきましょう。

文／広報委員　南澤亨全

レポート企画

人権学習講座　開催報告



令和6年6月29日「『悩めるお坊さん』～災害と支援活動に向き合う第一歩」～と題して人権学習講座をオンラインで開催し、宗門内外から28人が参加しました。

講師には元「曹洞宗こころの問題研究プロジェクト」委員の秋央文老師をお招きし、東日本大震災の被災者としてのご経験も踏まえながら、災害が惹起する不安や差別との向き合い方についてお話しいただきました。

グループセッションやお悩み相談の時間も設けられ、参加者それぞれの葛藤を共有し、前向きな議論へとつなげる有意義な時間となりました。

文／広報委員　竹田龍永

災害復興支援部ニュースレター

令和6年能登半島地震　活動スケジュール

月	活動日	団体名	活動内容
4月	1日～2日	全国曹洞宗青年会	仮設住宅物資搬入
	9日	曹洞宗静岡県第一宗務所青年会	炊き出し
	10日	曹洞宗兵庫県第二宗務所青年会	炊き出し
	17日～19日	曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会	炊き出し
	17日～19日	栃木県曹洞宗青年会	炊き出し
	21日～23日	静岡第三同志会	寺院支援
	24日～25日	広島県曹洞宗青年会	寺院支援
	25日	福井県曹洞宗青年会	社協支援
	25日	全国曹洞宗青年会	社協支援
5月	9日～10日	全国曹洞宗青年会	寺院要望聞き取り
	13日～14日	三重県曹洞宗青年会	寺院支援
	14日	曹洞宗福島県青年会	寺院支援
	14日～15日	新潟県曹洞宗青年会	寺院支援
	21日～22日	富山県曹洞宗青年会	寺院支援
	27日～28日	曹洞宗静岡県第一宗務所青年会	炊き出し、寺院支援
	27日～28日	群馬県宗務所青年会	寺院支援
	27日～28日	秋田県曹洞宗青年会	寺院支援
	28日～30日	山口県曹洞宗青年会	寺院支援

全日仏青NEWS

仏法興隆花まつり千僧法要　参加報告



令和6年4月26日、奈良県東大寺大仏殿で仏法興隆・世界平和・災害被災地の早期復興を願い開催されました。この法要は全日本仏教青年会（以下、全日仏青）が主催し、昭和63年より続けられています。今回より新型コロナウイルスの影響による制限も無くなり、宗派の垣根を超え全国から約350人の青年僧侶が参集しました。

開会式後には加盟各宗派青年会や諸団体が行列を成し、法螺貝に合わせ大仏殿へ向かいました。多くの国内外の観光客や修学旅行生が僧侶の行列に驚き、カメラを向ける方や合掌される方もおられました。大仏殿では全日仏青理事長・新井順證師を導師に法要が営まれました。

普段はそれぞれの流儀で法要を行っている多種多様な宗派の青年僧侶が、息を合わせて読経・礼拝を行じ、祈りを捧げました。この法要を通じて代々継承されてきた思いを胸に、参加した青年僧侶一人一人が焼香しました。

文／広報委員　植本大貴

Real Voice

教化委員会からのごあいさつ



委員長　天雨顕成

長崎県曹洞宗青年会

第25期は全曹青創立50周年という節目であり、教化委員会だからこそできることを求め、「佐世保施食法要」などの研修動画や「愛知学院大学×味来食堂」として精進料理教室開催など、柔軟な企画を通して委員会が一致団結した1年でした。残り1年も創立50周年の期間を大切に過ごすと共に次の方々に繋がる1年として精一杯務めてまいります。



副委員長　田中太隆

曹洞宗長野県第二宗務所青年会

コロナ禍に全曹青教化委員会へ出向してから２期目３年が経ちました。任期中周囲の状況が日々目まぐるしく変わることが多く、色々な物事の側面を見ているようです。また、青年僧侶からの発案に目を見張ることも多く感心するばかりです。此度のご縁に感謝し、今後に役立てられるような活動をできればと思っております。



委　長　阿部木童

曹洞宗福島県青年会

初出向で不安の多い中、様々なご縁に助けられながらここまで活動できたことを有り難く思います。全曹青における多種多様な企画や考え方に触れることで柔軟な心を養い、地元をはじめとしたこれからの布教教化に繋げられるよう一所懸命に務めてまいります。



委　長　福島順良

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

50周年という節目の第25期に出向をさせていただき、とても貴重な経験をさせていただいた1年間でした。教化委員として多くの貴重な法要に参加をさせていただきました。また興味深い研修を企画から携わらせていただき、とても感謝をしております。これからも全曹青の活動に貢献できるよう精進し、皆様の寺院運営の一助となることができるような企画・研修を行えるよう精一杯務めてまいります。



委　長　伊藤峻悦

三重県曹洞宗青年会

今期が初出向となり、50周年の節目も重なりありがたいご縁をいただきました。あたふたした1年が経ち、全曹青が今まで続いてきた重みを感じつつも、2年目はより充実した全曹青活動になればと思っております。また私は三重県曹洞宗青年会　和太鼓集団「鼓司」のメンバーとしても活動しておりますのでよろしくお願いします。



委　長　磯江紹元

曹洞宗鳥取県青年会

ご縁をいただき今期より出向させていただいております。時代の流れの中で求められている布教教化の形も変わってきている部分もありますが、一仏両祖のみ教えを大切に教化委員として企画、活動していきたいと考えております。残りの任期、関わってくださる多くの方々に感謝し精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

賛助費・ボランティア基金浄納芳名簿

2024年4月1日～2024年6月31日取扱い分

◆東京都
170 吉祥寺 様
175 泰宗寺 様
210 法清寺 様
371 円明寺 様

◆神奈川県2
1 本覺寺 様
83 正翁寺 様

◆埼玉県1
93 光秀寺 様

◆埼玉県2
238 松林寺 様
251 高正寺 様
368 東昌寺 様

◆群馬県
77 龍門寺 様
99 龍傳寺 様
311 泉通寺 様
359 泉龍院 様

◆栃木県
1 成高寺 様
23 松楽寺 様
46 龍昌寺 様
93 乾徳寺 様

◆茨城県
39 常安寺 様
76 雲集寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県
2 宗胤寺 様
22 廣壽寺 様
25 萬福寺 様
29 慶林寺 様
93 芳泰寺 様
296 東善寺 様

◆山梨県
29 西光寺 様
212 慈観寺 様
245 青原院 様
269 西方寺 様
392 慈照寺 様

◆静岡県1
26 宝珠院 様
95 久應院 様
138 龍興寺 様
388 林叟院 様
501 養徳寺 様

◆静岡県2
228 耕月寺 様

◆静岡県3
608 養勝寺 様
989 観音寺 様
1208 法雲寺 様
1306 藏雲院 様

◆静岡県4
1095 天林寺 様

◆愛知県1
18 大運寺 様
58 聚福院 様
80 普光寺 様
101 成福寺 様
139 祇園寺 様
158 秀傳寺 様
309 常宿寺 様
313 長松寺 様
342 常楽寺 様
605 天徳寺 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様
677 祐源寺 様
1191 智光院 様

◆愛知県2
684 花井寺 様

◆愛知県3
411 福田寺 様
431 報恩寺 様
557 楞嚴寺 様
1106 寶鏡寺 様

◆岐阜県
5 悟春院 様
119 佛徳寺 様
190 長久寺 様

◆三重県1
37 四天王寺様
166 陽光寺 様
269 大蓮寺 様
364 観音寺 様

◆京都府
23 善光寺 様
33 興聖寺 様
46 榮春寺 様
367 福昌寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府
5 臨南寺 様
26 天徳寺 様
31 正泉寺 様
107 實相院 様

◆和歌山県
52 宗應寺 様

◆兵庫県1
287 向榮寺 様
337 友松寺 様
370 明善寺 様

◆兵庫県2
103 東林寺 様
117 法円寺 様
149 瑞光寺 様
240 隆國寺 様

◆岡山県
59 観泉寺 様

◆広島県
22 光禅寺 様
46 双照院 様
48 真観寺 様
76 長福寺 様
86 西金寺 様
93 賢忠寺 様
95 泉龍寺 様
133 小林寺 様
143 常林寺 様
158 西福寺 様
162 徳雲寺 様
181 東明寺 様

◆山口県
145 久屋寺 様
216 玄空寺 様
236 飯倉寺 様

◆鳥取県
27 景福寺 様

◆島根県2
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
161 太林寺 様
199 妙樂寺 様

◆愛媛県
113 西禅寺 様
146 興雲寺 様
164 城慶寺 様

◆福岡県
25 南林寺 様
28 桂木寺 様

◆大分県
8 豊音寺 様

◆長崎県1
33 妙本寺 様
42 西方寺 様
78 宝泉寺 様

◆佐賀県
118 養寿寺 様

◆熊本県1
28 大慈寺 様

◆熊本県2
78 地藏院 様
79 向陽寺 様

◆鹿児島県・沖縄県
1 福昌寺 様

◆長野県1
39 盛傳寺 様
65 柳原寺 様
86 圓福寺 様
87 寶昌寺 様
150 長泉寺 様

◆長野県2
389 宗福寺 様
419 宗徳寺 様
558 無量寺 様

◆福井県
196 空印寺 様
232 長泉寺 様

◆富山県
54 大淵寺 様

◆新潟県1
358 円光寺 様
389 雲居寺 様
368 正通寺 様
393 曹源寺 様
394 常安寺 様
487 宝泉寺 様
496 長樂寺 様

◆新潟県3
623 摩尼王寺様

◆新潟県4
19 林照寺 様

◆福島県
46 龍傳寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
119 長泉寺 様
156 大龍寺 様
162 昌建寺 様
226 常隆寺 様
246 長徳寺 様
266 洞雲寺 様
461 正法寺 様

◆宮城県
7 保壽寺 様
55 實相寺 様
102 吉祥寺 様
141 自照院 様
212 祥雲寺 様
324 光嚴寺 様
352 安永寺 様

◆岩手県
8 源勝寺 様
17 清水寺 様
67 永昌寺 様
98 興禪寺 様
111 西泉寺 様
133 大林寺 様
179 圓滿寺 様
196 建高寺 様
198 東安寺 様

◆青森県
69 常現寺 様
79 法光寺 様
100 澄月寺 様
105 東昌寺 様
183 大乘寺 様

◆山形県1
36 久昌寺 様
101 長泉寺 様

◆山形県2
417 繁應院 様

◆山形県3
468 宗傳寺 様
503 梅林寺 様
622 光星寺 様
652 青陽院 様
687 寶泉寺 様
722 永蓮寺 様
734 東光寺 様

◆秋田県
27 永源寺 様
153 龍泉寺 様
184 護昌寺 様
186 永泉寺 様
206 松雲寺 様
265 倫勝寺 様
302 天昌寺 様
313 立昌寺 様
321 鏡得寺 様
338 圓通寺 様

◆北海道1
13 曹溪寺 様
456 大昌寺 様

◆北海道2
181 永祥寺 様
451 永泰寺 様

◆北海道3
224 禪龍寺 様
199 祥雲寺 様
268 瑞雲寺 様
460 道貫寺 様
492 永建寺 様

全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。
お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、
またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

創立50周年記念式典　祝賀芳名録

2024年5月23日

歴代北信越管区理事　原山浩昭　様
歴代北信越管区理事　荒井徹成　様
歴代東海管区理事　田中亮孝　様
歴代東海管区理事　小島泰寛　様
歴代東海管区理事　井上洋彰　様
歴代近畿管区理事　桂川道雄　様
歴代近畿管区理事　天野祐至　様
歴代中国管区理事　佐瀬宏洋　様
歴代中国管区理事　清成良知　様
歴代中国管区理事　城市泰紀　様
歴代中国管区理事　糸賀一峰　様
歴代四国管区理事　里野和敬　様
歴代九州管区理事　蔵山大顕　様
歴代九州管区理事　小島宗彦　様
歴代九州管区理事　秋吉龍成　様
歴代九州管区理事　田中光顕　様
歴代九州管区理事　須川憲司　様

曹洞宗北海道青年会　様
東北地区曹洞宗青年会連絡協議会　様
東海管区曹洞宗青年会　様
四国地区曹洞宗青年会　様
九州曹洞宗青年会　様

北海道管区理事　佐藤康彦　様
関東管区理事　宇田川宗美　様
北信越管区理事　倉科俊浩　様
中国管区理事　清木玄栄　様

曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会彩青会　様
茨城県曹洞宗青年会　様
千葉県曹洞宗青年会　様
曹洞宗静岡県第一宗務所青年会　様
伊豆曹洞宗青年会　様
静岡第三同志会　様
愛知県第一曹洞宗青年会　様
東三河曹洞宗青年会　様
曹洞宗愛知県第三宗務所青年会　様
曹洞宗岐阜県青年会　様
三重県曹洞宗青年会　様
京都曹洞宗青年会　様
大阪曹洞宗青年会　様
曹洞宗兵庫県第二宗務所青年会　様
岡山県曹洞宗青年会　様
山口県曹洞宗青年会　様
石見曹洞宗青年会　様
いずも曹洞宗青年会　様
福岡県曹洞宗青年会　様
長崎県曹洞宗青年会　様
熊本県曹洞宗青年会　様
曹洞宗福島県青年会　様
宮城県曹洞宗青年会　様
岩手県曹洞宗青年会　様
青森県曹洞宗青年会　様
曹洞宗山形県第三宗務所青年会　様
秋田県曹洞宗青年会　様

曹洞宗鳥取県青年会会長　長曽宏隆　様
いずも曹洞宗青年会会長　村上壮樹　様
いずも曹洞宗青年会　千葉哲之　様
曹洞宗福島県青年会会長　内藤宏信　様
曹洞宗福島県青年会副会長　村上徹信　様
秋田県曹洞宗青年会会長　鮎川義寛　様

創立50周年記念事業　祝賀添菜芳名録

災害復興支援活動研修会（6.4中国管区、6.26北信越管区）

臨済宗妙心寺派　様
曹洞宗山梨県青年会　様
岡山県曹洞宗青年会　様
広島県曹洞宗青年会　様
山口県曹洞宗青年会　様
石見曹洞宗青年会　様
曹洞宗長野県第一青年会　様
曹洞宗長野県第二宗務所青年会　様
新潟県曹洞宗青年会　様

広島県泉龍寺　山内裕貴　様
島根県總光寺　千葉哲之　様
中国管区理事　清木玄栄　様
広島県曹洞宗青年会会長　古川承久　様
広島県曹洞宗青年会副会長　稲角剛之　様
曹洞宗鳥取県青年会会長　長曽宏隆　様
いずも曹洞宗青年会会長　村上壮樹　様
福井県曹洞宗青年会会長　粟谷一浩　様
曹洞宗石川県青年会会長　川端孝法　様

全国曹洞宗青年会創立50周年　協賛金芳名録

2024年4月1日～2024年6月31日取扱い分

◆愛知第1　祇園寺　様　　◆宮城県　自照院　様　　◆秋田県　永泉寺　様

創立50周年記念式典　祝賀芳名録

2024年5月23日

大本山永平寺　様
大本山總持寺　様
曹洞宗宗務庁　様

（公社）シャンティ国際ボランティア会　様
曹洞宗尼僧団　様
曹洞宗婦人会　様
全日本仏教青年会　様
和宗仏教青年連盟　様
全国日蓮宗青年会　様
埼玉県佛教青年会　様
（一社）神戸青年仏教徒会　様
（一社）観世ふぉん電話相談　様
リブウトアートワーク　様
梅金商店　様

第６期会長	吉岡棟憲　様
第６期副会長	鈴木章純　様
第７期会長	神野哲州　様
第９期会長	木南広峰　様
第10期会長	吉川俊雄　様
第11期会長	櫻井朝教　様
第12期会長	寿松木宏毅様
第13期会長	荒木正昭　様
第13期副会長	伊串泰純　様
第14期会長	池上幸秀　様
第15期会長	山口英寿　様
第15期事務局長	逸見智孝　様
第15期30周年委員長	阿部光裕　様
第16期会長	宮寺守正　様
第16期副会長	門脇昌文　様
第17期会長	芳村元悟　様
第17期副会長	高垣晶敬　様
第18期会長	久間泰弘　様
第19期会長	松岡広也　様
第19期副会長	第20期40周年委員長　荒木道宗　様
第19期副会長	大山義道　様
第19期事務局長	大久保厚志　様
第20期会長	櫻井尚孝　様
第20期副会長	膝館晋哉　様
第21期会長	安達瑞樹　様
第21期副会長	酒井泰寛　様
第21期副会長	神作紹道　様
第22期会長	倉島隆行　様
第22期副会長	河口智賢　様
第23期会長	原知昭　様
第23期副会長	宮本覚道　様
第23期事務局長	金森成裕　様
第24期会長	山田俊哉　様
第24期副会長	岡島典文　様

WFBY世界仏教徒青年連盟会長	村山博雅　様
全日本仏教青年会副理事長	杉谷義恭　様
全日本仏教青年会副理事長 曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会彩青会会長	来馬司龍　様
全日本仏教青年会副理事長	西島泰伸　様
全日本仏教青年会顧問	谷晃仁　様
全日本仏教青年会事務局長	健代晃教　様
曹洞宗婦人会会長	高野美智子　様
（一社）観世ふぉん電話相談事務局	福永剛彦　様

歴代北海道管区理事　副島豊道　様
歴代北海道管区理事　野村宣英　様
歴代東北管区理事　早坂文明　様
歴代東北管区理事　中沢宏哉　様
歴代東北管区理事　菅原芳徳　様
歴代関東管区理事　北條正興　様
歴代関東管区理事　實淨典英　様
歴代関東管区理事　小林眞悟　様
歴代関東管区理事　田中秀一　様

SOUSEI
発行所／全国曹洞宗青年会　〒105-8544　東京都港区芝2-5-2　曹洞宗宗務庁内　発行責任者／田ノ口太悟　編集責任者／宮本貴心　編集委員／信行一宏・佐藤孝成・南澤亨全・補陀孝亮・植本大貴・竹田龍永・多飯皓成
本誌編集部並びに発行部数に関するお問い合わせ先／〒987-1304　宮城県大崎市千石字大欅91　石雲寺内　TEL・FAX　0229-55-3447　制作・デザイン／リブワトアートワーク　印刷所／創文社印刷株式会社　定価100円
平成11年6月8日第三種郵便物認可（年4回2・5・8・11月の10日発行）そうせい第206号 令和6年8月10日発行

全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業　「両大本山報恩拝登」

大本山永平寺「僧堂坐禅」「全曹青創立50周年報恩諷経」「世界平和大施食諷経」ご随喜のご案内

昨年の大本山總持寺拝登に続いて、本年は大本山永平寺に拝登いたします。
参集の青年会員で僧堂内単において坐禅をさせていただいた後、全曹青会長導師のもと法堂にて「全曹青創立50周年報恩諷経」「世界平和大施食諷経」を厳修いたします。

ご多忙とは存じますが下記の日程で開催いたしますので、今期のスローガンにあるようにコロナ禍を乗り越え一人でも多く全国の青年僧侶が結集し、想いを集めた諷経とし未来へとつながる拝登となるようお願い申し上げます。

なお、臨時評議員会と臨時総会を併催いたします。

記

《日　時》　令和6年11月21日（木）

09:30	臨時評議員会（大講堂）
引き続き	臨時総会
13:00	坐禅一炷（僧堂）
14:00	全曹青創立50周年報恩諷経（法堂）
引き続き	世界平和大祈祷諷経

《場　所》　大本山永平寺



※詳細に関しましては、改めて各青年会の皆様をはじめ関係の皆様にご案内させていただきます。

全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業

禅のつどい「自然に親しむZEN ASOBI」

禅喫茶「RYUREI」、オンライン坐禅会「穏坐」と展開している創立50周年記念事業として企画する「禅のつどい」では、寺院から飛び出してこちらから出かけていくことを念頭に企画しております。第3弾となる「自然に親しむZEN　ASOBI」では、大自然あふれる会場で子どもから大人まで、キャンプの要素を取り入れながら遊びを交え、禅の教えを感じてもらえる機会を創出いたします。お寺に行くのは少し敷居を高く感じてしまう若い年代の方にも、この企画にご参加いただくことで仏教や僧侶を身近に感じてもらい、生活の中に教えがより一層溶け込む一助となれば幸いです。

創立に大きな機縁をもたらした禅のつどい。改めて全曹青創立50周年という節目で様々に展開し、創立期の想いを振り返り、今の青年僧侶にできるアプローチを模索してまいります。お檀家様や地域の皆様にお声がけいただけますと幸いに存じます。詳細は、同封のチラシとHP『般若』をご覧ください。

記

日　時	令和6年10月19日（土）～20日（日） ［13:30受付］［11:45散会］
場　所	京都府立るり渓少年自然の家 〒622-0065　京都府南丹市園部町大河内小米阪1-9
募集対象	子ども～大人　先着50名程度
参加費	大人3000円　子ども1000円　未就学児無料
申込方法	全曹青HP『般若』よりメールフォームにてお申し込みください
問い合わせ	全国曹洞宗青年会50周年記念事業実行委員会 委員長　森井宗淳　080-3494-6201



表紙の話

今号の表紙は、特集「木とともに生きる」というテーマを意識した写真です。大樹の木陰で休む人の姿に、生きる上での自然と人の関係性を描きました。時に自然に守ってもらい、やがて人は自然を育む。相互に関わり合う、人と自然の在り方を表現しています。

撮影地/ 愛媛県「生樹の御門」　　撮影/50周年記念事業実行副委員長　菅悠生